

2010年3月26日

ご参考資料

Follow
Up
Memo

フォローアップメモ

南アフリカの利下げについて

nikko am
fund academy

南アフリカ準備銀行（中央銀行）は25日、2009年8月以来となる利下げを決定し、政策金利であるレポ金利を0.5ポイント引き下げ6.5%としました。

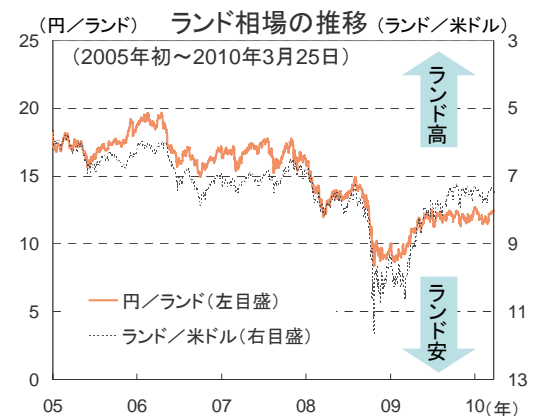
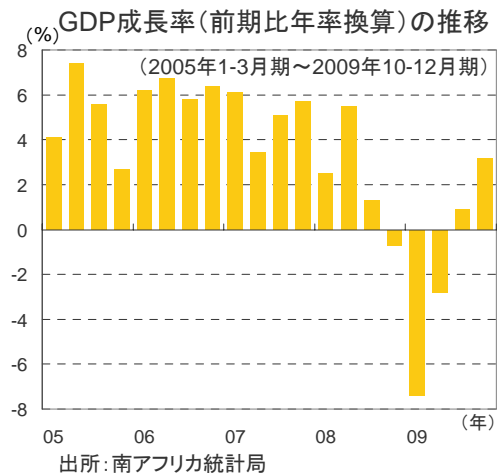
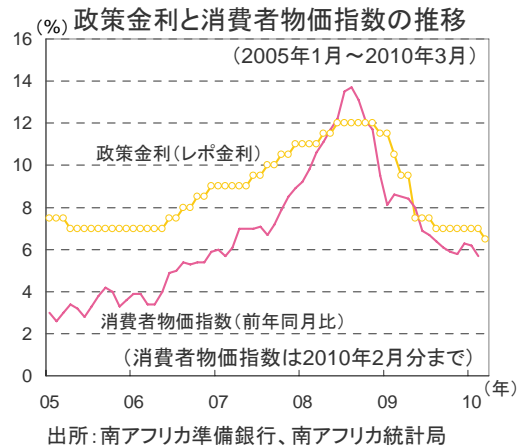
同国の景気回復は、初期段階では他の多くの国と比べて遅れ気味でした。しかし、足元ではペースが高まりつつあることなどから、今回の金融政策委員会では、政策金利が据え置かれるとの見通しが大半を占めていました。

準備銀行の総裁は、今回の利下げの背景として、同国の景気回復が緩やかなものにとどまっていることに加え、インフレ見通しが改善していることを挙げています。同国の消費者物価指数の上昇率は今年2月に5.7%に低下し、過去3年の最低水準に並ぶと同時に、準備銀行のインフレ目標水準（+3%～+6%）に入ってきました。総裁は、物価の改善が想定よりも早い点を指摘したほか、今年7-9月期にはインフレ率が4.9%に低下し、2011年には年平均で5.4%になるとの見通しを示しました。また、ランドの堅調について、インフレ見通しの面からは引き続き好材料だと述べた一方、過度のランド高となれば、景気にとって懸念要因になるとの見解を示しました。

同国では、サッカー・ワールドカップがいよいよ6～7月に開催されます。これに伴ない、主に消費を通じて同国の景気が押し上げられると予想されます。また、そうした一時的な要因にとどまらず、今年下期には、雇用情勢の改善などを受け、個人消費が回復し、景気回復に寄与すると見込まれます。

今回の予想外の利下げにより、同国の利上げのタイミングが従来の想定よりも遅れるとの見方が市場ではあるようです。一方、上記のような景気見通しを前提とすると、さらなる利下げが行なわれる可能性は低いと考えられます。

以上



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。